

茨城運輸支局バリアフリーネットワーク会議

開催概要

〈主催：関東運輸局茨城運輸支局〉

- 日時：平成27年11月17日（火）14:00～16:00
- 場所：土浦市役所 会議室
- 講演：茨城LD等発達障害親の会 星の子 代表 井寺 弘孝 氏
- 議事・土浦市におけるバリアフリーの取り組み
（土浦市整備部都市計画課）
 - ・国のバリアフリーの取り組み
（関東地方整備局、関東運輸局）
 - ・意見交換



委員

（敬称略）

- 〈座長〉山田 稔（茨城大学工学部都市システム工学科 教授）
- 御代川 栄子（茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 副会長）
 - 豊島 京子（社会福祉法人 茨城県視覚障害者協会 理事）
 - 上田 和英（一般社団法人 茨城県聴覚障害者協会 福祉委員長）
 - 檜山 太一（一般社団法人 茨城県心身障害者福祉協会 副会長）
 - 渡邊 隆（一般社団法人 茨城県精神保健福祉会連合会 理事）
 - 井寺 弘孝（茨城LD等発達障害親の会 星の子 代表）
 - 有賀 絵理（茨城大学非常勤講師）
 - 高松 志津夫（NPO法人ウィブ 北茨城代表・地域公共交通マイスター）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社水戸支社、首都圏新都市鉄道株式会社、ジェイアールバス関東株式会社、関東鉄道株式会社、関東グリーンバス株式会社、大利根交通株式会社、神立ハイヤー有限会社、一般社団法人茨城県バス協会、一般社団法人茨城県ハイヤー・タクシー協会 【関係行政機関等】茨城県、茨城県警察本部、土浦市、取手市、牛久市、竜ヶ崎市、かすみがうら市、つくば市、つくばみらい市、守谷市、阿見町、独立行政法人自動車事故対策機構 【後援】一般財団法人運輸振興協会【その他】関東地方整備局、関東運輸局

講演

【茨城LD等発達障害親の会星の子代表 井寺 弘孝 氏】「〈講演題目〉発達障害のおかれている状況や行動」（発達障害の特性と理解、発達障害と社会生活）

バリアフリーの取り組み等

【土浦市（整備部都市計画課）】「土浦市におけるバリアフリーの取組み」バリアフリー基本構想を平成21年に策定。土浦駅・荒川沖駅・神立駅周辺を重点整備地区とする、まちづくり整備の実施。（主：土浦市役所新庁舎整備事業。平成27年9月24日開庁。誰もが使いやすい庁舎を目指す。）

会議での発言（委員より）

- ・公共交通ではモニター画面で表示される情報をもっと充実したほうがいい。
- ・バリアフリー重点整備地区の外でも音響信号の整備を進めて欲しい。
- ・心のバリアフリー対策では子供たちに対してバリアフリー教室など多く実施しているが、大人への対策も増やして欲しい。大人でも障害者とのように接したらいいのかわからない人が多い。
- ・日頃からバスの運転手さんや駅員さんにバス停又は駅で迷っているような子供を見かけたら「どうかしましたか？」と声を掛けて欲しい。
- ・訪日外国人旅行者が増えて多言語標記への対応が進んでいるが、障害を持つ訪日外国人旅行者への対応が遅れている。
- ・バリアフリー対策も大事だが認知症対策も重要。
- ・精神障害者のみ交通運賃割引制度がない。これもバリア。是非、精神障害者にも同様の制度を作ってもらいたい。
- ・ハード面でのバリアフリーはかなり進んでいるが、住民の意識のバリアフリーはまだ進んでいない。行政や交通事業者の担当者の方はバリアフリーのことをすごく勉強しているが現場に浸透していない。今後は現場の方や一般住民への心のバリアフリーの意識向上に努めていただきたい。

栃木運輸支局バリアフリーネットワーク会議

開催概要

<主催：関東運輸局栃木運輸支局>

- 日時：平成27年12月7日（月）14:00～16:00
- 場所：栃木県自動車整備振興会 教育会館 3階会議室
- 講演：宇都宮大学教育学部 長谷川 万由美 教授
「障害者差別解消法と発達障害」
- 報告：バリアフリーの取り組みについて
 - ・国の取り組みについて（関東運輸局、関東地方整備局）
 - ・運輸事業者の取り組みについて（(一社)栃木県バス協会）
- 意見交換

委員

- <座長>大森 宣暁（宇都宮大学大学院工学研究科 教授）（敬称略）
長谷川 万由美（宇都宮大学教育学部 教授）
麦倉 仁巳（一般財団法人 栃木県身体障害者福祉会 会長）
加藤 範義（一般社団法人 栃木県視覚障害者福祉協会 副会長）
境澤 洋子（一般社団法人 栃木県聴覚障害者協会 理事）
大下 又吉（一般財団法人 栃木県老人クラブ連合会 副会長）
興野 憲史（栃木県精神保健福祉会 会長）
植村 文恵（栃木県自閉症協会 副会長）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】東武鉄道株式会社、関東自動車株式会社、東野交通株式会社、友井タクシー有限会社、一般社団法人栃木県バス協会、一般社団法人栃木県タクシー協会【関係行政機関】栃木県、宇都宮市、鹿沼市、上三川町、茂木町、芳賀町、高根沢町、日光市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、那須町、塩谷町、足利市、栃木市、佐野市、小山市、壬生町【後援】一般財団法人運輸振興協会【その他】関東地方整備局、宇都宮国道事務所、関東運輸局

施設設置管理者等より（バリアフリーの取り組み等）

【一般社団法人栃木県バス協会】「交通バリアフリーへの取り組みについて」

ノンステップバスの導入状況や運行上の工夫、車両以外のバリアフリーの取り組みについて説明。運行上の工夫としては、バリアフリー対応車両については時刻表に分かりやすく表示をしたり大規模病院等に優先的に集中させるなど、利用しやすい環境整備に努めている。車両のバリアフリー以外の取り組みとしては、バス停まで行かなくても発着時刻等がわかるバス案内システムの導入（JR宇都宮駅西口）や2～3社が競合運行している路線での各社の時刻表をまとめた「統合時刻表」の設置、ベビーカー利用者への配慮、バリアフリー教室の実施など。

会議での発言（委員より）

- ・発達障害者は強い口調で言われるとパニックを起こしてしまうこともあるため、運転手はできるだけ穏やかな口調で話していただければ、発達障害者は安心して言葉を受け入れることができる。
- ・発達障害者に対してはハード面で配慮できる部分は少ないと思うが、温度や光加減、音などの感覚に関して敏感で強い光や音でパニックを起こしたりする場合もあるので、こうしたものについてはハード面で配慮できる部分があると思われる。
- ・公共交通機関の運賃について、身体、知的障害者に関しては割引があるが精神障害者については割引が無い。精神障害も他の障害と同様に扱っていただきたい。
- ・障害者に対する運転手の対応は良くなってきている。しかし、障害者に対してどういう対応をしていいかわからない部分も多いと思う。こういう障害者にはこういう対応をお願いしますといったリーフレットがあるので、運転手への社員教育をよろしくお願いたい。
- ・交通事業者は、障害者がどんなところに不便を感じているかや、障害者の行動の特性などを理解する必要があるが、交通事業者だけでなく周りの乗客もそういうことを理解していれば、さっと手助けをすることができる。こころのバリアフリーを今後も継続して、バリアの特性などを勉強していくことが重要である。

群馬運輸支局バリアフリーネットワーク会議

開催概要

＜主催：関東運輸局群馬運輸支局＞

- 日時：平成27年11月20日（金）14:00～16:00
- 場所：群馬県社会福祉総合センター 203会議室
- 議題：国のバリアフリーの取り組み（関東地方整備局、関東運輸局）
施設設置管理者等のバリアフリーの取組について
（前橋市、高崎市、伊勢崎市、群馬県市町村教育委員会
連絡協議会）
意見交換
- 講演：NPO法人群馬県精神障害者社会復帰協議会理事
上野 勝征 氏

委員

（敬称略）

- ＜座長＞湯沢 昭（前橋工科大学工学部社会環境工学科教授）
- 中越 信一（社会福祉法人群馬県社会福祉協議会地域福祉課長）
- 森 繭美（一般社団法人群馬県聴覚障害者連盟理事）
- 金子 武夫（公益社団法人群馬県視覚障害者福祉協会会長）
- 渋谷 克行（公益社団法人群馬県知的障害者福祉協会副会長）
- 磯田 文男（一般財団法人群馬県老人クラブ連合会常務理事兼事務局長）
- 渡辺 辰雄（公益社団法人群馬県身体障害者福祉団体連合会常務理事兼事務局長）
- 上野 勝征（特定非営利活動法人群馬県精神障害者社会復帰協議会理事）
- 山田 智子（群馬県自閉症協会事務局）

参画（委員以外）

- 【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社東京支社、東武鉄道株式会社、一般社団法人群馬県バス協会、一般社団法人群馬県タクシー協会
- 【関係行政機関】群馬県、群馬県警察本部、前橋市、高崎市、伊勢崎市、渋川市、太田市、群馬県市町村教育委員会連絡協議会
- 【後援】一般財団法人運輸振興協会【その他】関東地方整備局、関東運輸局

講演

- 【NPO法人群馬県精神障害者社会復帰協議会理事 上野 勝征 氏】「＜講演題目＞こころのバリアフリーのために」（精神障害者と家族への処遇の歴史と現状等）

バリアフリーの取り組み等

- 【前橋市】「マイタク」の実施説明。高齢者・障害者等、移動促進の観点からタクシー運賃の一部を支援する施策。28年1月23日実施予定。
- 【高崎市】「高崎市交通バリアフリー基本構想（高崎駅周辺・センター周辺）」の説明。今後、第二期バリアフリー基本構想を策定予定。
- 【伊勢崎市】バリアフリー基本構想（公共交通特定事業・道路特定事業・交通安全特定事業・その他の事業）の取組内容および進捗状況の説明。
- 【群馬県市町村教育委員会連絡協議会】「心のバリアフリー」の取り組み。道徳教育のみならず、バリアフリー教室（小中学校にて）実施。特別支援学校との交流等。

会議での発言（委員より）

- ・地震や災害時の対応について。特に屋外では情報を得る術がないことから、公共施設や民間施設も含めて、電光掲示板やモニターなどの設置をお願いしたい。併せてタクシーの中にも同様に設置をお願いしたい。
- ・群馬県においては、タクシーの依頼方法がTELのみであるため、FAXでも依頼できるようにしてもらいたい。
- ・点字ブロックや音響信号機について、だいぶ設置が増えてきているが、ここにも設置してもらいたいと思うような場所がたまにある。またそれらに限らず、今後についてはエスコートゾーンの設置についても積極的に取り組んでほしい。
- ・案内表示やガイダンスなども含めて、当事者（障害者）目線で設置等は行ってほしい。整備する際は、なるべく当事者立ち会いのもと、実際の声を聞きながら、整備をしてもらえるとうれしい。
- ・自閉症や知的障害など、他の障害も含めて、まずは関心を持ってもらい、広く障害について知ることから始めてもらいたい。それぞれの障害の特性を理解して、正しい知識のもと、各人におかれては対応してもらおうことが、合理的配慮ということになると思われる。
- ・バリアフリーについては、すぐに画期的に変わるものではないことから、継続的に改善に取り組んでいただきたい。
- ・障害者手帳の統一化（データ管理等による）カード化を望む。

埼玉運輸支局バリアフリーネットワーク会議

開催概要

＜主催：関東運輸局埼玉運輸支局＞

- 日時：平成27年11月20日（金）10：00～12：00
- 場所：ソニックシティ906会議室（さいたま市）
- 基調講演：東洋大学ライフデザイン学部教授 高橋 儀平 氏
埼玉親の会『麦』事務局 矢崎 弘美 氏
- 議事：バリアフリー化推進に関する取り組みについて
 - ・バリアフリーの現状と関東運輸局の取り組み
 - ・関東地方整備局のバリアフリーの取り組み
- 意見交換

委員

（敬称略）

- ＜座長＞高橋 儀平（東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科教授）
- 山田 智恵子（公益社団法人埼玉県手をつなぐ育成会理事）
- 宮城 正（公益社団法人埼玉県視覚障害者福祉協会代表理事）
- 傳田 ひろみ（OMIYAぱりあフリー研究会代表）
- 浅見 典子（公益社団法人やどかりの里常務理事）
- 大内 伸一（一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会事務局長）
- 矢崎 弘美（埼玉親の会『麦』事務局）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社大宮支社、東武鉄道株式会社、国際興業株式会社、朝日自動車株式会社、株式会社つばめタクシー、第三交通株式会社、一般社団法人埼玉県バス協会、一般社団法人埼玉県乗用自動車協会【関係行政機関】埼玉県、熊谷市、川口市、鶴ヶ島市、神川町【後援】一般財団法人運輸振興協会【その他】関東地方整備局、関東運輸局

講演

- 【東洋大学ライフデザイン学部教授 高橋 儀平 氏】「＜講演題目＞バリアフリー基本構想について」
- 【埼玉親の会『麦』事務局 矢崎 弘美 氏】「＜講演題目＞発達障害の特性とバリアフリーに求めること」（発達障害の特性と理解、発達障害と社会生活）

バリアフリーの取り組み等

【一般社団法人埼玉県乗用自動車協会】

重点目標としてUDドライバー研修を継続的に実施、UD車両も各社1～2両を目標に導入を図っている。
（2020年を目標）



会議での発言（委員より）

- ・知的障害者には、鉄道の車掌のアナウンスが独特の発音で聞きとりにくいことがある。
- ・精神障害者に対する鉄道運賃割引制度を進めてほしい。
- ・今般初めて委員として出席し、発言の機会をいただいて感謝している。様々な立場からの意見を伺うことができ、大変参考になった。多角的な方向から物事を検討する必要性を痛感した。
- ・オリンピック・パラリンピックの開催を控え、空港からのリムジンバスにノンステップバスがないことは検討すべき課題。
- ・JR山手線に乗車した際、短い駅間ということで乗降駅のみならず乗車中も駅員が付き添ってくれるなど嬉しい対応があった。
- ・視覚障害者にとって駅の自動改札機がICカードで入れるのは便利だが、出入り両方向の自動改札機だと向こうから来る人が分からなく交錯してしまうことがある。出る、入るそれぞれ専用にしてほしい。
- ・バスのICタッチパネルの位置が、車両によって違うことがありパネルを探すのに苦労する。パネル位置を統一してほしい。
- ・鉄道で事故等により電車が止まった時、放送では聴覚障害者は聞こえない。案内表示や電光掲示板を多く設置して情報を知らせてほしい。

千葉運輸支局バリアフリーネットワーク会議

開催概要

〈主催：関東運輸局千葉運輸支局〉

- 日時：平成27年11月27日（金）10:00～12:30
- 場所：関東地方整備局関東技術事務所 屋内展示場内会議室
- 基調講演：日本大学理工学部教授 藤井 敬宏 氏
- 特別講演：松戸手をつなぐ育成会副会長 岩野 明子 氏
- 議事（1）バリアフリーに関する取り組みについて
バリアフリーに関する事例紹介（交通事業者、同協会）
国のバリアフリーの取り組み（関東地方整備局・関東運輸局）
- （2）意見交換

委員

（敬称略）

- 〈座長〉
- 藤井 敬宏（日本大学理工学部教授）
 - 神林 保夫（社会福祉法人千葉県身体障害者福祉協会理事長）
 - 今野 正隆（公益社団法人千葉県視覚障害者福祉協会理事）
 - 鈴木 茂男（松戸市ろうあ協会事務局長）
 - 岩野 明子（松戸手をつなぐ育成会副会長）
 - 福良 登（NPO法人土曜会、松戸市精神障害者家族会理事長）
 - 角口 早苗（松戸市自閉症協会会長）
 - 寺嶋 光子（野田市いきいきクラブ連合会女性委員長）

参画(委員以外)

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社東京支社、東武鉄道株式会社、東武バスイースト株式会社、京成バス株式会社、小金タクシー有限公司、有限会社東葛運転代行社、一般社団法人日本民営鉄道協会、一般社団法人千葉県バス協会、一般社団法人千葉県タクシー協会 【関係行政機関】千葉県、千葉県警察本部、松戸市、野田市、流山市、柏市、我孫子市 【後援】一般財団法人運輸振興協会 【その他】関東地方整備局、関東運輸局

講演

- 【日本大学理工学部教授 藤井 敬宏 氏】「〈講演題目〉まちのバリアをなくす『気づき』と『活動』～継続へのアプローチ～」
- 【松戸手をつなぐ育成会副会長 岩野 明子 氏】「〈講演題目〉知的障害者と公共交通機関の利用について」



バリアフリーの取り組み等

- 【東武バスイースト(株)】・・・バス車両のバリアフリー化、運転者に対するバリアフリー接客教育の実施、他。
- 【小金タクシー(有)】・・・福祉車両の導入、障害者・高齢者の生活支援、乗務員による介護士資格取得促進、他。
- 【JR東日本(株)東京支社】・・・バリアフリー新法の対象駅（1日乗降3,000人）77駅中69駅が段差解消。2005年以降、「サービス介助士2級」の取得を推進。駅構内を機動的に巡回し、高齢者等に接客をおこなう「サービスマネージャー」を県内主要駅に配置。

委員からの主な意見

- ・JR東日本のアプリで交通情報が得られるようになったことは喜ばしい。運行情報等、電光掲示板による速やかな案内を望む。（聴覚障害者）
- ・一人で歩いている際、声をかけてくださる事が多くなった。真っ直ぐに歩くことが難しく、足を踏み外すことがあるので、踏切内に誘導用ブロックを設置を望む。ノンステップバスの車両が増えたことで、乗降がしやすくなった。マイクを使った案内を望む。（視覚障害者）
- ・バスに乗車する際に運転手から「有難うございます」の一言をかけられると「安全運転に感謝します」の気持ちにつながります。対人関係は大切。この一言で障害者は励まされた気持ちになります。「suica」等利用の際、障害者割引が適用されるよう検討いただきたい。（身体障害者）
- ・ホームにエアコン付きの待合室があり、子供も安全に待つことができる。一つのルールを守ることで精一杯な知的障害者にとって一般道路は右側通行なのに駅構内だと左側通行ということで混乱してしまいます。（知的障害者）
- ・バスターミナルなどの広い階段には、中央にも手すりをつけて欲しい。（高齢者）

東京運輸支局バリアフリーネットワーク会議

開催概要

<主催：関東運輸局東京運輸支局>

- 日時：平成27年11月30日（月）14:30～16:30
- 場所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」7階イベントホール
- 議事（1）バリアフリーの現状報告及び交通利用者からの情報提供
 - ・国からの報告（関東運輸局、関東地方整備局）
 - ・一般社団法人東京精神保健福祉士協会
- （2）バリアフリー推進に関する取組みについて
 - ・バリアフリー基本構想に係る日野市の取組みについて
 - ・交通事業者の取組みについて
- （3）意見交換

委員

（敬称略）

<座長>森本 章倫（早稲田大学 教授）

笹川 吉彦（公益社団法人東京都盲人福祉協会）

有山 一博（一般社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）

秋山 隆（公益社団法人東京都老人クラブ連合会）

佐々木 桃子（社会福祉法人東京都知的障害者育成会）

小西 慶一（公益社団法人東京都身体障害者団体連合会）

美濃口 和之（一般社団法人東京精神保健福祉士協会）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】バス事業者16者、鉄道事業者9者 【関係協会】一般社団法人東京バス協会、一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会、一般社団法人全国福祉輸送サービス協会、公益財団法人交通エコロジーモビリティ財団 【後援】一般財団法人運輸振興協会
【関係行政機関】警視庁、東京都、区市町村25者、関東運輸局、関東地方整備局

講演等

【一般財団法人東京精神保健福祉士協会 美濃口 和之 氏】「<題目>障がい者の特性と支援について」（障害者に対する接し方（合理的配慮の必要性））

バリアフリーの取り組み等

【日野市（都市計画課）】「ユニバーサルデザインのまちづくり」

（概要）鉄道駅（バリアフリー化整備済）の細部について検証。

ユニバーサルデザインのまちづくりを進めるにあたり、市職員への体験型研修等を実施。

【京王電鉄バス】「バリアフリー化の概要および社員教育の取組みについて」

（概要）車両のバリアフリー化率は100%。乗務員等に対する教育の中で、東京都が取り組む「ヘルプマーク」への周知と理解を進める。

会議での発言（委員より）

- ・誰でもトイレの中から外の様子が見えるようにできれば、車いすや松葉杖の人が待っていることがわかった際に急いで出るようになるのでは。（外からは見えず、中からは見えるようなシステムを考えていただければと思う。）
- ・視覚障がい者にとって、自転車前方から近づいてきていることが判らないことから、自転車利用者のマナー向上も心のバリアフリーの一つだと思う。
- ・ホームドアの開閉時に、音声案内と併用し、ランプ等の視覚的情報もあると安心できる。
- ・障がいをお持ちの方が、支援を必要とする際に有効に活用できるヘルプマーク及びヘルプカードは東京都で取り組んでいるが、川崎、横浜等の近隣では知られていないことから全国へ広げ、一元化を図ることが好ましい。

神奈川運輸支局バリアフリーネットワーク会議

開催概要

<主催：関東運輸局神奈川運輸支局>

- 日時：平成27年12月11日（金）15:00～17:00
- 場所：神奈川県トラック総合会館 7階大会議室
- 講演：横浜国立大学 理事・副学長 中村 文彦 氏
特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク
理事長 清水 弘子 氏
- 意見交換：講演、各委員からの意見・提案に関する意見交換
- 情報提供：整備局・運輸局のバリアフリーの取り組みについて

委員

（敬称略）

- 中村 文彦（横浜国立大学 理事・副学長）〈座長〉
- 久保田 仁（公益財団法人横浜市老人クラブ連合会 事務局次長）
- 戸井田愛子（公益財団法人神奈川県身体障害者連合会 会長）
- 鈴木 孝幸（特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者福祉協会 会長）
- 河原 雅浩（公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 事務局長）
- 坂田 信子（横浜市心身障害児者を守る会連盟 事務局長）
- 古富 多美（認定特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド 理事）
- 清水 弘子（特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク 理事長）

参画（委員以外）

- 【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社横浜支社、相模鉄道株式会社、小田急電鉄株式会社、京王電鉄株式会社、京浜急行電鉄株式会社、湘南モノレール株式会社、東京急行電鉄株式会社、箱根登山鉄道株式会社、横浜高速鉄道株式会社、株式会社横浜シーサイドライン、横浜市交通局高速鉄道本部・自動車本部、神奈川中央交通株式会社、川崎鶴見臨港バス株式会社、アサヒタクシー株式会社、逗子菊池タクシー株式会社
- 【関係団体】一般社団法人神奈川県バス協会、一般社団法人神奈川県タクシー協会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー推進部
- 【後援】一般財団法人運輸振興協会 【関係行政機関等】神奈川県、神奈川県警察本部、横浜市、川崎市、相模原市、茅ヶ崎市、平塚市、関東地方整備局、関東運輸局

講演

- 【横浜国立大学 理事・副学長 中村 文彦 氏】「<講演題目>公共交通のユニバーサルデザインに向けて」
- 【特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク 理事長 清水 弘子 氏】「<講演題目>障がい者の移動支援について」



バリアフリーの取り組み等

『福祉ニーズにこたえるタクシー利用推進プロジェクト』

【共催】一般社団法人 神奈川県タクシー協会／特定非営利活動法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク

【趣旨】UDタクシーの導入及びUDドライバー研修を実施しているが、知的障害児者への対応は十分な実績をつくるには至っていない。

障害当事者家族、事業者などとの意見交換を行い、中間支援組織が介入することでタクシー事業者の福祉対応への意識向上と、利用者が安心して利用できる環境整備に具体的に取り組んでいく。県立鶴見養護学校をモデルケースとして、県内に広げていく。

【取組】タクシー運行管理者、乗務員を対象とした知的障害についての学習会の開催（平成27年11月）、県立鶴見養護学校の見学や保護者との意見交換会を開催して、子どもたちの普段の様子やタクシーの利用例、課題などについての意見交換を行う。年度末には取り組みをまとめて発表、タクシー会社が県立鶴見養護学校を対象とした送迎を事業展開する予定。

会議での発言（委員より）

- ・ノンステップバスが増えているが、バス停までの歩道整備を行なわないと利用が減ってしまうと思うので、検討いただきたい。
- ・人的支援がどこまで配慮できているかにより、よりよく円滑な移動ができるのではないかと（例：タクシー降車時の誘導）。
- ・情報のバリアの解消（事故時の行き先変更もわからない等、文字情報の不足）がもっと必要。
- ・バリアフリーのハード面の整備は、相手の立場や思いを理解しようとするソフト面の充実があってこそ、2倍も3倍も活かされる（例：点字ブロック上に置かれた荷物。ベビーカーがエレベーターに乗れないなど）。互いの理解が必要。
- ・移動サービスに係る情報周知が非常に遅れている。自治体も含めこういった形で障害者等の外出機会を作っていくのか、一緒に考えていただきたい。

山梨運輸支局バリアフリーネットワーク会議

開催概要

＜主催：関東運輸局山梨運輸支局＞

- 日時：平成27年12月4日（金）14:00～16:30
- 場所：山梨県立男女共同参画推進センター 大研修室
- 議事（1）バリアフリー化推進に関する取り組みについて
 - ・バリアフリーの現状と関東運輸局の取り組みについて
 - ・関東地方整備局のバリアフリーの取り組み
 - ・山梨県のユニバーサルデザイン指針について
 - ・【講演】山梨県知的障害者支援協会会長 山西 孝 氏
- （2）意見交換

委員

- （敬称略）
- ＜座長＞ 佐々木邦明（山梨大学大学院医学工学総合研究部教授）
- 大木 勝蔵（一般社団法人山梨県老人クラブ連合会副会長）
- 芦沢 茂夫（山梨車いす生活者の会「ステップアップ」相談役）
- 山西 孝（山梨県知的障害者支援協会会長）
- 堀口 俊二（一般社団法人山梨県視覚障がい者福祉協会会長）
- 仁科加代子（一般社団法人山梨県聴覚障害者協会事務局長）
- 三浦 雅子（山梨県精神障害者家族会連合会相談役）
- 星合 深妃（NPO法人HappySpaceゆうゆうゆう理事長）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】富士急行株式会社、山梨交通株式会社、富士急行ハイヤー株式会社、一般社団法人山梨県バス協会、一般社団法人山梨県タクシー協会、株式会社富士レークホテル 【後援】一般財団法人運輸振興協会

【関係行政機関】山梨県、山梨県警察本部、山梨市、南アルプス市、上野原市、市川三郷町、富士川町、関東地方整備局、関東運輸局

講演

【山梨県知的障害者支援協会会長 山西 孝 氏】「＜講演題目＞知的障害者にとってのバリアフリーとは」（発達障害の特性、理解、支援のあり方他）

バリアフリーの取り組み等

【山梨県（県企画県民部企画課）】「山梨県のユニバーサルデザイン指針について」ユニバーサルデザインに関する取り組みについての説明。
（概要）「暮らしやすさ日本一」の実現をめざすことを目的に県が取り組むべき方向性を示す「やまなしユニバーサルデザイン基本指針」を平成20年に策定。県民、市町村、事業者、民間団体などにおける取り組みの目安としているもの。

会議での発言（委員より）

- ・知的障害者は、日常生活において行動がパターン化されており、普段と違う行動をとることが困難である。公共の場において困った様子を見かけたら優しく声をかけていただきたい。
- ・県内はマイカーでの移動が主流であり、バス等の公共交通機関が不十分。高齢者や障害者が自由に移動できるよう公共交通機関の充実を望む。
- ・自動でなく開閉ボタンでの開け閉めの列車運行の場合、視覚障害者は開閉ボタンの位置がわからないので、乗れない時が多々ある。駅員による補助もあることであるが、県内は無人駅が多くあるので、扉の開閉ボタンには音声案内を設けていただきたい。
- ・観光に来た聴覚障害者の方々に対応できる観光ボランティアガイドを増やして欲しい。
- ・列車ダイヤが乱れた時など、駅等、構内放送による情報提供では聴覚障害者は理解できない。すべての駅に電光掲示板を設置してほしい。
- ・身体障害者や知的障害者に認められている、JR、民鉄、旅客船、バス、タクシーの割引制度を精神障害者にも認めてほしい。
- ・オリンピック・パラリンピックも予定されているので、高速バスも含め、すべてのバスを車いすで乗れるようにして欲しい。
- ・旅館やホテルのバリアフリー化も積極的に進めていただきたい。
- ・少子化が進むなか、子育てに不慣れな母親が増えているので、こういった母親を県全体として支援することが必要である。